

1. 国旗一覧表 (国旗の由来説明あり)

オセアニア

 <p>オーストラリア連邦 旗竿の部分にユニオンジャックが配置され、旗面には連邦の星である七稜星と南十字星が描かれている。1952年までは、民衆は青地の旗を使用できずに赤字の国旗を掲げていた。</p>	 <p>キリバス共和国 イギリス植民地のギルバート・エリス諸島だった頃の紋章をちょっと手直しして旗にした。このような旗を紋章旗と呼んでいる。黄色で描かれた軍艦鳥は、権威と自由を表し、青と白の波形模様は南太平洋の海洋国であることを表現している。</p>	 <p>サモア独立国 植民地化される以前のサモアは紅白の国旗だったが、1948年に青と赤の旗が復活し、さらに翌年に星を1つつけ加えてできた。左上に描かれている南十字星は、この国が南半球に位置していることを示している。</p>	 <p>ソロモン諸島 5つの星は、この国を構成する主要な島々を表現するとともに、南十字星の象徴ともなっている。青色は南太平洋と川の豊かな水を表し、黄色の斜めラインは太陽を、緑は自然と豊かな国土を表現。市民用・政府用・軍用の船舶旗は、各々赤・青・白地に赤十字をデザインしたものの。</p>	 <p>ツバル 独立時から1995年まで使用された国旗が復活して採用された。9つの星は、この国を構成する9つの島を表している。左上のユニオンジャックは英連邦に属していた証として、政府用の国旗にはユニオンジャックの下に国章がつけられる。</p>	 <p>トンガ王国 国王が1862年の国会で「国旗にはキリストの十字を配し色は十字架の上で流された血を表現する赤を希望する」と述べたことに由来する。1875年の憲法で国旗のデザインを変えることを禁止したので、その後イギリスの支配を受けて独立しても国旗はずっと変わらなかった。</p>	 <p>ナウル共和国 中央の黄色の横線は赤道を表し、青地は太平洋を表現している。ナウルの地理は赤道のすぐ南の日付変更線の西にあるので、中心を外れた場所にナウルを表す白星が配置されている。星の12本の光はこの国の12の原住民族を指す。</p>	 <p>ニュージーランド 青地で左上にユニオンジャックを配し、南十字星を表す4つの星が描いてある。植民地時代には、ほかの英領諸国と同じようにイギリス国船舶旗のブライにバッジを配置した旗だった。1869年に現在の旗の図柄を採用。</p>	 <p>バヌアツ共和国 横に黄色でY字形が描かれ、太平洋にあるバヌアツの位置をデザインしたものとなっている。黒は肥沃な国土とメラネシア人を表し、緑は農業を、赤は独立闘争で流された血を表現。左側の紋章はバヌアツの聖なるシンボルで、野豚の牙とシダである。</p>	 <p>パプアニューギニア独立国 学生のスーザン・カリケの図案を採用。赤と黒で斜めに塗り分けられた旗で、2色は伝統芸術や民族衣装などに使用される国民に親しみのある色である。左下に南十字星が、右上には国鳥のアカカザリフウチョウ（極楽鳥）のシルエットがある。</p>
 <p>パラオ共和国 日本の国旗に似ているが、パラオの国旗は夜空にのぼる満月。1000ほどの図案の中から選定されたもので、金色に輝く満月はこの国の運命と平和を表し、青は海や主権と独立を表現している。</p>	 <p>フィジー共和国 植民地時代の色調と紋章のデザインを修正して使用。国章のライオンと赤いセント・ジョージの十字はイギリスを表して、バナナ・サトウキビ・ヤシなどはフィジー諸島を表現する。英連邦からは離脱したが、ユニオンジャックが配されている。</p>	 <p>マーシャル諸島共和国 左下から右上に向かって太くなるオレンジと白のラインは、この国が発展する姿を表現している。地色の青は太平洋を表し、オレンジは勇気と富を、白は平和と光の輝きを表現。24の光を放つ太陽は自治体の数を表し、4本の長い光線は十字架を意味する。</p>	 <p>ミクロネシア連邦 1962年に作られた旗には6つの行政区を象徴する星が配されていたが、マリアナとパラオの分離により星4つとなった。もとは国連信託統治領だったことにちなんで国連旗の青色を採用した。同時に青は太平洋も表現している。</p>						